

りんご黒星病の開花期前後の防除対策 ～ 過去の発生状況に応じて防除薬剤を選択してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

前年9月におけるりんご黒星病の新梢発病率は、県北部で16.3%（平成8.0%）とやや高く、県中央部・県南部でも0.2%（平成0.0%）で、越冬量はやや多いと推定される。

ふじの展葉期は、かづの果樹センター（鹿角市）が4月13日で平成より10日早く、果樹試験場（横手市）も4月12日で平成より5日早かった。

子のう胞子の初飛散確認日は、かづの果樹センター、果樹試験場ともに4月13日であった。

4月15日に仙台管区気象台が発表した1か月予報では、向こう1か月の気温は平成より高く、降水量は平成並か多いと予報されている。

以上により、子のう胞子の新葉への感染時期は早く、発生時期も早まると予想される。また、開花期前後の薬剤防除は過去の発生状況に応じた薬剤選択を行うなど、E B I 剤耐性菌対策を確実に実施し、生育初期の発生量を抑制する必要がある。

2. 防除対策

1) 耕種的防除

発生時期は前年より早まると予想されるため、園地をよく観察し、発病葉等は見つけ次第摘み取り、焼却する。

2) 開花期前後の防除薬剤

① 過去2年間に黒星病の発生があった園地

開花直前にSDHI剤（オルフィンフロアブル等）、落花直後にはユニックス顆粒水和剤47を選択する。SDHI剤やユニックス顆粒水和剤47を使用する場合は、耐性菌出現を回避するため、必ず保護殺菌剤[※]を加用する（表-1）。

② 過去2年間に黒星病の発生がなかった園地

開花直前と落花直後にE B I 剤が使用できる。E B I 剤を使用する場合は、耐性菌出現を回避するため、使用回数は年2回以内とし、必ず保護殺菌剤[※]を加用するか、これらの混合剤を使用する（表-1）。

※保護殺菌剤…チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤等

3) 散布の留意点

- ① 開花期前後の散布間隔は10日以内とし、散布予定日に降雨が予想される場合は降雨前に散布する。
- ② 散布液量はりんごの生育に応じて不足のない量とし、散布ムラのないように丁寧に散布する。

4) 苗木の管理と防除

- ① 苗木は先端部ほど保菌リスクが高いため、定植する場合は、先端から1/2以上を切り詰めて行う。
- ② 防除は展葉後にベフラン液剤25 1,000倍液を散布する。耐性菌が感染しているおそれがあるためE B I 剤は使用しない。

3. 資料

表-1 りんご黒星病の防除薬剤（4～5月）

分類	農薬名	希釈倍数	散布時期	本剤の使用回数	各成分の総使用回数
W	ストライド顆粒水和剤	1,500倍	展葉期～開花直前	2回以内*2	ア
E	パスポート顆粒水和剤	1,000倍		3回以内	イ
W	デランフロアブル	2,000倍	展葉期～落花10日後	3回以内	3回以内
J	オルフィンフロアブル	4,000倍	開花直前	3回以内	3回以内
J	カナメフロアブル	4,000倍		3回以内	3回以内
J	ネクスターフロアブル	1,500倍		3回以内	3回以内
J	フルーツセイバー	2,000倍		3回以内	3回以内
N	ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍	落花直後	4回以内	4回以内
K	アンビルフロアブル	2,000倍		3回以内	3回以内
K	サンリット水和剤	2,000倍		3回以内	ウ
K	オーシャイン水和剤	3,000倍		5回以内	5回以内
K	サルバトーレME	3,000倍		3回以内	3回以内
K	スコア顆粒水和剤	3,000倍	開花直前及び落花直後	3回以内	エ
K	トリフミン水和剤	3,000倍	の2回	3回以内	3回以内
K	ラリー水和剤	3,000倍		3回以内	オ
K	ルビゲン水和剤	3,000倍		3回以内	3回以内
K	オンリーワンフロアブル	4,000倍		3回以内	3回以内
K	インダーフロアブル	10,000倍		3回以内	3回以内
B・K	スコアMZ水和剤	500倍		3回以内	エカ
B・K	ブローダ水和剤	500倍		3回以内	オカ
B・K	テーク水和剤	600倍		3回以内	ウカ
B	アントラコール顆粒水和剤	500倍		4回以内	4回以内
B	チオノックフロアブル	500倍	開花直前及び落花直後	5回以内	キ
B	トレノックスフロアブル	500倍	から落花25日後頃まで	5回以内	キ
B	ジマンダイセン水和剤	600倍	10日ごとに3回	3回以内	カ
B	ペンコゼブ水和剤	600倍		3回以内	カ
D	オーソサイド水和剤80	800倍	開花直前～収穫前日	6回以内	ク
D・F	アリエッティC水和剤	800倍		3回以内	クケ

分類 B：有機硫黄剤 D：ポリハロアルキルチオ剤 E：有機塩素剤
 F：有機リン系剤 J：SDHI剤 K：EBI剤
 N：アニリノピリミジン系剤 W：その他

*1 但し、開花期以降散布は3回以内 *2 開花前までは2回以内
 ア：フルオルイミド（5回以内（開花前は2回以内、開花後は3回以内））
 イ：TPN（3回以内） ウ：シメコナゾール（3回以内）
 エ：ジフェノコナゾール（3回以内） オ：マイクロブタニル（3回以内）
 カ：マンゼブ（3回以内） キ：チウラム（5回以内）
 ク：キャプタン（6回以内） ケ：ホセチル（3回以内）

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		